



様々な組織を標的として 選択的な遺伝子の送達を可能にするペプチド



医学部 医学科 准教授

貴田 浩志

分野

医学・健康、バイオ、化学・薬品

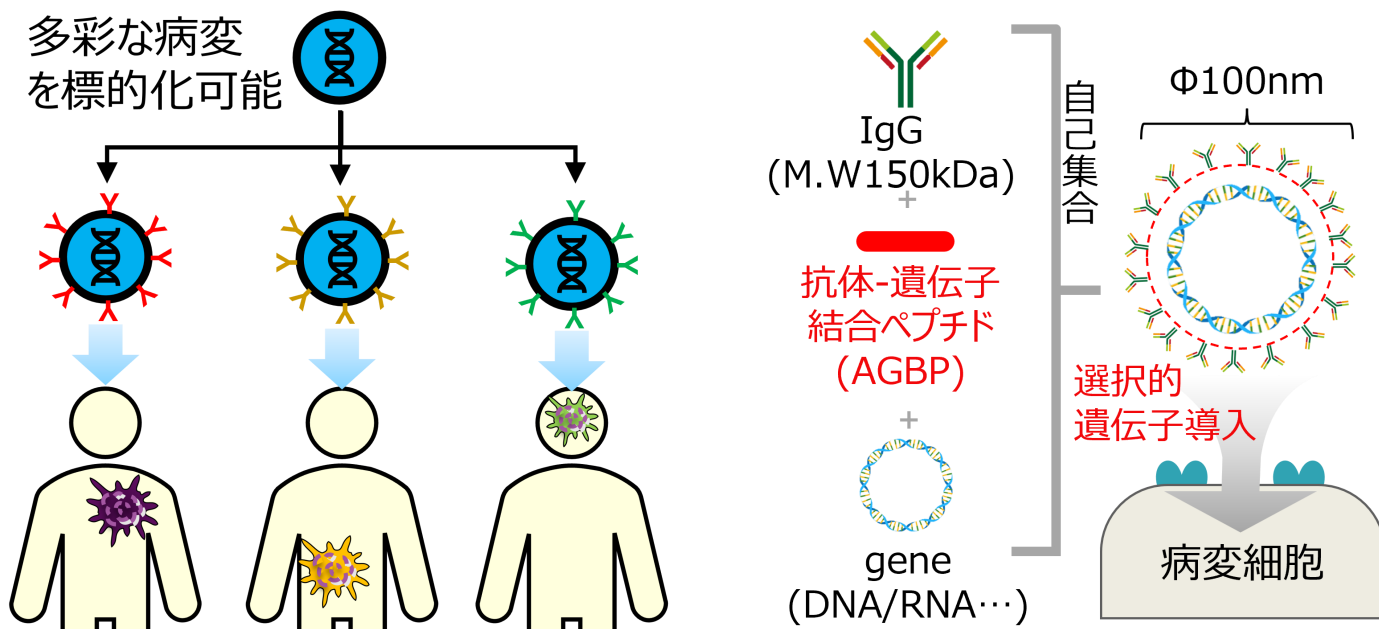
キーワード

ペプチド、薬物送達システム、遺伝子治療

概要

本技術はIgG抗体と遺伝子の両方に結合する、天然アミノ酸からなる抗体/遺伝子結合ペプチドである。

ペプチド+治療遺伝子+標的細胞結合IgG抗体を混合して標的指向性を持ったナノ粒子が形成される。IgG抗体がデリバリー機能を果たし、簡単に様々な疾患の病変選択的な治療遺伝子送達を実現する。



特徴、効果、独創的な点

- 天然アミノ酸で構成される、安全、安価、高性能な非ウイルス性遺伝子ベクターである
- 簡単に病変選択的に治療遺伝子を送達可能で、治療効果向上・副作用軽減を実現できる
- 様々な疾患の病変選択的な治療遺伝子送達プラットフォームとして利用可能である

適用分野、用途

- 中枢神経変性疾患の治療遺伝子送達
- 悪性腫瘍への治療遺伝子送達
- 自己免疫性疾患の治療遺伝子送達

論文、知的財産情報等

- 抗体と遺伝子に結合能を有するポリペプチド (特願2021-115889)